

マコモタケ栽培

こよみ <地域特産物にチャレンジ>

ほ場条件：収穫時まで水が確保できる田
 目標収量：400kg/10a

1 施肥設計

施肥例① 分施肥系の場合

	施用量 kg/10a	成分量			
		N	P	K	
基肥	牛ふん堆肥	2000	(2.0)	-	-
	基肥 5 5 5	80	12.0	12.0	12.0
追肥	硫安 (7月中旬)	30	6.3	-	-
	硫安 (8月中旬)	20	4.2	-	-
合計			22.5 (24.5)	12.0	12.0

※ 硫安は尿素でも可。その場合、硫安の施用量の半分とする。

施肥例② 肥効調節型肥料を使用の場合

	施用量 kg/10a	成分量			
		N	P	K	
基肥	牛ふん堆肥	2000	(2.0)	-	-
	LPs 早生専用	100	22.0	12.0	14.0
合計			22.0 (24.0)	12.0	14.0

2 苗の準備

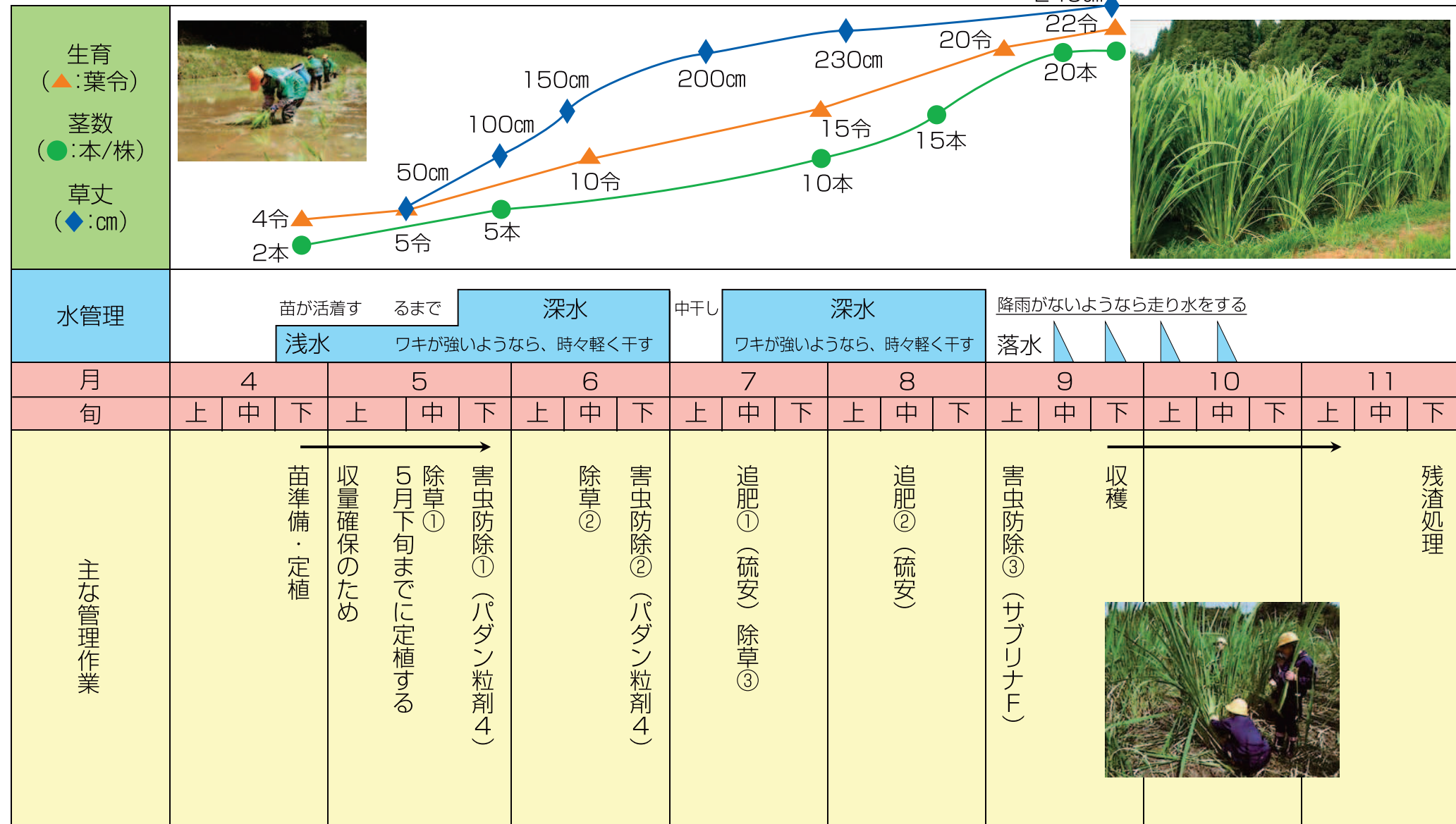
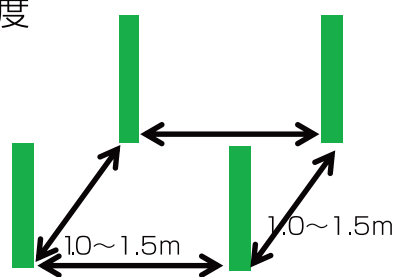
- 根をつけるように子株を掘取り、苗に使用する
- 5月に植え付けする場合は、蒸散量を抑えるため、苗の長さを約40～50cm程度に切る



苗は前年の栽培ほ場から準備する(マコモタケが発生しなかった株の近くからは採取しない)

3 植付

- 1.0～1.5m×1.0～1.5mの栽植密度で2本植とする
- 苗が倒れない程度の浅植えとする
- <10aあたり必要株数>
 1.0m×1.0m ⇒ 約900株(1,800本)
 1.5m×1.5m ⇒ 約330株(660本)
- 採取した苗は、なるべく早く植え付ける



4 害虫防除

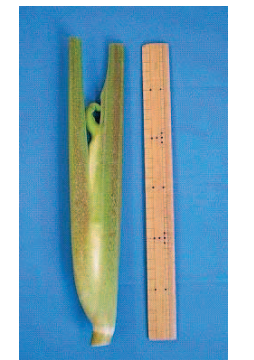
害虫名	薬剤名	10aあたり散布量	施用時期 (収穫前日数)
ニカメイチュウ	パダン粒剤4	4kg (3回まで)	①5月下旬 ②6月下旬 (収穫75日前まで)
	サブリナフロアブル	希釈倍数 1000倍 100~300ℓ	発生初期 (収穫前日まで)
ホソミドリウンカ	粘着くん液剤	希釈倍数 100倍 300ℓ	発生初期 (収穫前日まで)
	ポタニガードES	希釈倍数 500倍 300ℓ	発生初期 (-)

5 収穫・出荷調整

- 株元がふくらみ、マコモタケが少し白く見えたときに行う
- 収穫が早いと収量が低下し、遅れると外皮の緑化や内部に黒点が発生し、品質が低下するので注意する
- 鋭利な刃物で他の茎を傷めないようにマコモタケの下で切り収穫する
- 直売所や市場に出荷する際は外葉2枚をつけ30cmに切り揃え、袋に入れる



収穫適期のマコモタケ



30cmに揃えたマコモタケ